

S T Vテレビ (2007年6月6日(水)「どさんこワイド180」)

消えた年金記録

消えた5000万件の年金記録。社会保険庁は2009年3月までにすべての記録を確認するといえます。このうち北海道にはいったい何人いるのでしょうか？

先週から混み始めた社会保険事務所への問い合わせはまだ途切れることはありません。

(職場を移った看護師)「仕事を変えているからちゃんと登録されているか心配で…」

(国民・厚生に加入した経歴のある男性)「年金記録が抜けているかいないか調べに来た」

そして、やはり、こんな女性もいました。

(女性)「支払い月数を数えて領収書と突き合わせてみたら、事務所の記録に載っていないかったりするから…」

北海道での国民年金・厚生年金を貰っている人は現在、のべ338万人に上ります。

(年金を移った受給者)「(Q社会保険庁を信頼している?)そうですね。疑いませんよね」

多くの受給者は、そう考えていますが、社会保険庁は、全国で5000万人もの記録が、ハッキリしていないと言っているのです。そこで社会保険庁が頼っているのが、6年前まで「国民年金」の徴収事務を代行してきた市町村の記録です。

(国保年金課・松原和幸係長)「(Qこれが全部記録か?)そうです」

マイクロ・フィルム。ただ自治体の保管期限5年は過ぎていて札幌市の場合も、たまたま残っていただけです。

(札幌市国保年金課・松原和幸係長)「データがない市町村もあるだろう」

一枚で1500人分という膨大なデータを社会保険庁が読み解くのも大変ですが、そもそも、同じデータは、社会保険庁に渡してあるはずだと言います。

(札幌市国保年金課・松原和幸係長)「社会保険庁に報告提出しているから記録は全部同じ物があるはずだ」

実際に、支払いデータが、抜け落ちている人が、札幌にもいます。

(漏れが判明した女性)「テレビで報じていたから調べた。そうしたら4か月間抜けていた。

(仕事を)かわる時や(新しい職場に)入る時に抜けた」

では、こうした人が道内には何人いるのでしょうか。北海道社会保険事務局の答えはコウでした。統合されていない年金記録は社会保険庁で一括管理しておりますが地域的な対象者数は不明です。年金を扱う社会保険労務士は、自己防衛が必要だといえます。

(社会保険労務士・熊谷たか子さん)「申し出ないと漏れる恐れがあるのは昔から感じていた。転職の多い方。女性で結婚して名前が何回か変わった方。住所を移転した事が多い方。そういう方は要注意です」

札幌市は、国民年金のデータは、社会保険庁に渡す方針ですが、厚生年金データの管理はもともと社会保険庁です。道内の年金加入者の記録にいくつの「穴」があるのか。その数は未だに分かっていないのです。